

つながる  よこはま

2022年7月号

にほんごコミュニケーション

よこはま日本語学習支援センター ～横浜×日本語×多文化共生～

横浜で暮らす外国人トークリレー
第9回：任金龍（にんきんりゅう）さん

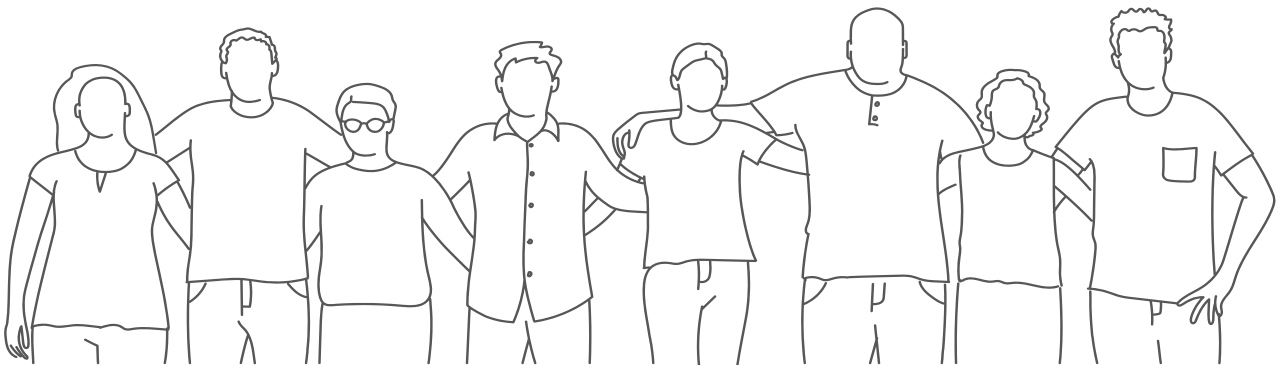
新連載 難民を支える支援とは
難民を知るための基礎知識
第1回：難民とは？
矢崎理恵さん

新連載 よこはま×日本語×多文化共生
事業を通じて目指すこと
第1回：相手も自分も大事にする
ブラッシュアップ講座

特集

子どもから大人まで、 切れ目のない日本語学習支援を目指して

横浜市・地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業
2021年度のふりかえりと、これから



2022年度第1号（通算9号）

編集・発行 よこはま日本語学習支援センター（運営：公益財団法人横浜市国際交流協会）
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5F YOKE内
電話 045-222-1173 FAX 045-222-1187 MAIL c-nihongo@yoke.or.jp

発行年月日 2022年7月5日

横浜市委託事業／文化庁令和4年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用



横浜で暮らす外国人 トークリレー



外国人のみなさんに、生活の中での日本語との関わりについて話していただくコーナーです。今回登場するのは、環境学を学ぶ留学生(大学4年)の任さん。来日当初は「あいうえお」もままならなかったそうですが、とても流暢な日本語でインタビューに応じてくださいました。幼少期の経験から環境問題に強い関心を抱き、夢を叶えるために努力し続けています。

日本に来た理由を教えてください

約15年前、住んでいた村が鉾山の開発により環境汚染され、家族で南京へ移住しました。幼少期より環境問題と隣り合わせだった私は、環境技術が先進的な日本で学びたいと考え、日本への留学を決めました。

大学では環境学を専攻し、基礎知識の習得はもちろん、「環境保全と経済成長を両立させる」という観点から、経営の知識も深めています。環境問題は経済活動などの人間の営みにより発生してしましますが、国や地域の発展のため、その活動を止めることはできません。とても難しい課題ですが、今学んでいる知識を最大限に吸収し、今後活かしていきたいと思っています。

どのように日本語を勉強してきましたか

日本語学校にも通いましたが、中でもグ

ンと日本語力が伸びたと感じるのは、ファーストフード店のアルバイト経験です。

はじめは伝わらないことはかりでしたが、失敗を恐れずに、日本人スタッフに積極的に話しかけるようにしました。また、少しでも多くの会話ができるよう、きれいな文法よりも、とくにかくたくさん単語を覚えるよう心がけました。それ以外にも、スタッフとの会話を事前にシミュレーションし、鏡の前で会話の練習(1人2役)をしたりしました。職場の雰囲気もとても温かく、スタッフだけでなく店長も、シンブルな日本語で私とのコミュニケーションを楽しんでくれて、嬉しかったです。

日本語の勉強を続ける秘訣はありますか

日本語を勉強する「目的」を明確にすること、しっかりと「リフレッシュ」することが続けていく秘訣だと思います。

私の場合は、環境学を学ぶために日本に来たので、その時々で取り組んでいること・頑張っていることのベストを尽くしたいという思いで日本語を勉強してきました。

モチベーションが下がったときは、大好きなラーメンを食べたり、バスケットボールをして乗り切りました。

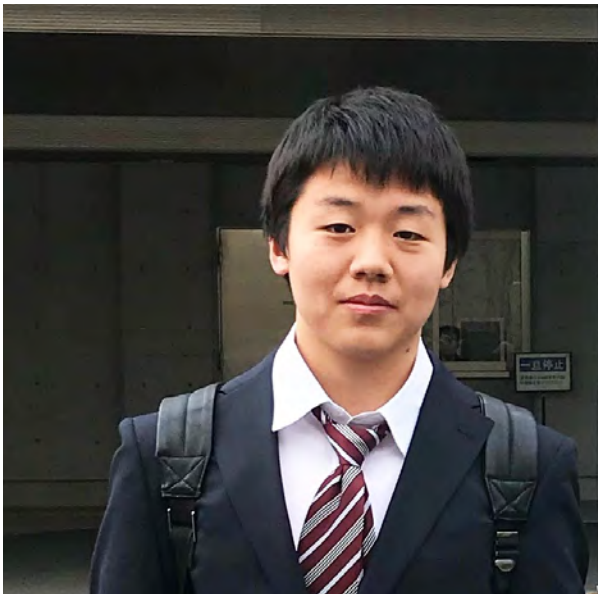
日本・中国での就職活動、それぞれの違いは?

約半年間、両国で就職活動をしました。が、求められる人材像がまったく異なると感じました。日本では人柄、将来性が重視され、スキルはそれほど必要とされないことが多いようです。また、入社後の研修が充実しているため、志望者にとってはチャンスが大きいと言えます。

一方の中国では、即戦力となる人材が最も求められる傾向にあります。このような背景から、中国の大学生は2年生から積極的にインターンシップに参加し、企業の研修も入社前に行われるのが通例となっています。加えて勉強量も多いため、趣味や他の勉強に費やす時間はあまり無いようです。私は勉強も趣味も両立できているので、とても嬉しいです。人生一度きりなので、大変なことでも挑戦し、悔いのない学生生活を送りたいと思います。

任さんの、将来のビジョンを教えてください

当初は日本で就職したいと考えていましたが、家族のために中国で働くことを決めました。来年4月より、上海にある日系企業で、経営コンサルタントとして働く予定です。そこでしっかりと経営の実務経験を積み、将来的には、電気自動車普及のビジネスマンをしている父とともに、脱炭素社会を目指した仕事をしたいと思っています。



Profile

任 金龍 (にん きんりゅう) さん
日本在住歴: 5年 中国出身

横浜市国際学生会館 2022年度留学生学生会長に就任し、学生たちの「交流」の場をつくるため、イベント企画などの活動をしています。趣味はバスケットボールで、会館施設内のコートで汗を流してリフレッシュしているそうです。明るく何事にも前向きで、明確なビジョンを持って楽しく過ごされているのがとても印象的でした。

*横浜市国際学生会館: 外国人の留学生、研究者等に宿泊施設を提供するとともに、市民の国際理解を推進するために設置された会館。指定管理者は YOKE。



ともに歩み、ともに育む

よこはま×日本語×多文化共生

このコーナーでは、日本語学習支援の充実に向けた
よこはま日本語学習支援センターの事業を、
「キーフレーズ」とともに紹介します。



今回のキーフレーズ

01

「相手も自分も大事にする」

事業名：2021年度日本語ボランティアブラッシュアップ講座
～相手も自分も大事にする日本語教室を目指そう！～

全2回の連続講座を、2つのテーマで行いました。

テーマ「著作権」と「マイクロアグレッション」に共通するのは「相手も自分も大事にする」、そして「権利を守る」ということ。著作権では「作った人と使う人」、差別概念であるマイクロアグレッションでは「発言する人と受け取る人」双方の立場と権利を守ることが大切です。それぞれの講座の内容をみていきましょう。(2022年3月開催)

普段、著作権を考えると「このテキストや画像は使っていないか悪いか」という視点でとらえがちです。この講座では、著作権法の条文をもとに「そもそも著作権って何だろう？」に立ち返ることから始めました。著作権法の究極の目的は「文化の発展に寄与すること」。著作者の権利の保護をしなければ、継続的な文化の発展は期待できないことを確認したうえで、身近な例をあげていたしながら、著作権法の基本を理解しました。



日本語教室で使う教科書やイラストなどの教材：「このような使い方で大丈夫かな？」と心配の声も聞かれます。オンラインの場合などは疑問も尽きません。著作者の利益・権利を守る著作権制度の概要を学び、日本語教室で起こりうるケースについて、参加者のみなさんと一緒に考えました。



「日本語教室で知っておきたい『著作権』」

講師：匂坂拓樹さん
(りのは総合法律事務所 弁護士)

差別とまでは言えないけど、受け取り手にとってあまり気持ちよくない言葉

日常生活のなかの無意識の差別概念である「マイクロアグレッション」は、多くのにとって馴染みがないことばかりではありません。例えば人と話をしている「悪気がないこととはわかるけど、なんか引くか」とか。また、異なる文化背景を持つ人との無意識なやりとりが差別につながっているとしたら？このような問題提起から、この講座は企画されました。



「悪気はなかったんだけど・・・」
—あなたも私もしているかもしれない、無意識の差別—

講師：渋谷実希さん
(一橋大学大学院・
東京大学ほか非常勤講師)

著作権をレッスンに使用する際、その方法がOKなのかNGなのか、いつも判断に迷っていた。今後は、「その方法で作者が不利益を被るかどうか」に注意しながら、レッスンの準備をしていきたいと思う。

参加者の声

聞きなれない法律用語を使っ
ての講座であればあまり理解
できなかったと思うが、身近な具体
例を挙げて解説して下さったので、
非常にわかりやすかった。

たくさん挙がりました。グループで出た多くの問いに対し、講師が丁寧に対応してくださり、みなさんの「もやもや」も晴れてきたようです。著作者への配慮を考える機会となり、配慮を踏まえた日常の活動での留意点に気づいた講座でした。

や態度があります。発言した側は差別とは思っておらず、むしろ寝たつもりでいることもしばしばです。講座では豊富な具体例について、また、それぞれの体験をグループワークで話し合いながら、気付きにくい差別概念「マイクロアグレッション」について考えました。
ワークでは、ある場面に遭遇したとき、どのように感じるかを話し合いました。「全く気にならない」から「とても嫌な気持ちや差別を感じる」まで意見に幅があり、人によって感じ方がさまざまであることが実感としてわかりました。
明らかな差別や偏見と違い、わかりにくい部分が多いことなどに難しさがありますが、まずは自分事として捉え、意識化していくことが大切だと学びました。

参加者の声

「女性なのにすこいね」など気を遣ったつもりでも、受け取る相手にとっては傷つくこともある。日常の話し言葉の中に潜んでいる偏見や差別について改めて考えさせられた。
マイクロアグレッションの存在を知らず、気づかないうちに差別になってしまいうケースはとも多いと思う。多くの人に知ってもらう活動が必要。また、マイノリティからではなく、マジョリティが自分事として捉えることが必要であることを理解した。

どちらの講座でも、普段活動する教室を超えた情報交換・交流の場となり、参加者の皆さんは、意見交換から多様な考え方があることに気づいたようです。
日本語教室には、文化の異なる多様な人たちが集まっています。相手も自分も大事にして、誰もが安心して参加できる日本語教室を一緒に目指していきたい。

よこはま日本語学習支援センター 2021年度のふりかえりと、これから

子どもから大人まで 切れ目のない日本語学習支援を目指して



2020年8月に開設したよこはま日本語学習支援センター。センターでは、横浜市域の地域日本語教育の総合的な体制づくりを通じて多文化共生のまちづくりを進めるため、地域の皆様と協力したさまざまな取組を行ってきました。ここでは2021年度の主な取組を振り返り、3年目となる2022年度につなげていきます。

2021年度の事業報告は、こちらで公開しています。



担当者からひとこと

地域日本語教育の理念から個別の工夫にいたるまで、幅広く意見をうかがえるのがありがたいです。日頃から、情報提供や事業への協力など、センターの基盤を支える力になっていただいています。(藤井)



*写真は2022年度(ハイブリット開催)

11月・2月開催)

グループを設け、地域連携、担い手育成、日本語教室について議論しました。(6月・2月開催)

PICK UP

横浜市地域日本語教育総合調整会議
横浜市域における地域日本語教育の体制づくりの推進にあたり、各分野の識者等で構成される会議を3回行いました。地域日本語教育(教室)、多文化共生企業、外国人当事者など各視点から、多様な意見をいただきました。また、分科会として少人数のプロジェクト推進ワーキンググループを設け、地域連携、担い手育成、日本語教室について議論しました。(6月・2月開催)

重点A...よこはま日本語学習支援センターの充実

携したプログラムの検討実施などを展開しました。



2021年度を振り返る

2021年度は、3つの柱、8つの取組(うち5つの重点取組A~E)で事業を実施し、地域日本語教室への支援の充実、モデル地域での関係団体のネットワーク構築の強化、新たなニーズに対応する企業と連携したプログラムの検討実施などを展開しました。

担当者からひとこと

「地域日本語教育って?」をテーマに、各モデル地域より活動報告がありました。「オンラインでも日本語学習を」、「交流を通じた日本語学習支援を」など、区ごとの特徴ある取組が紹介されました。今後も事例共有の場を設けていきます。(前波)



PICK UP

初期日本語教室
「はじめての横浜〜日本語で話そう」

日本語の学習未経験者や学習を始めたばかりの人を対象に、「日本語学習」「生活情報」「交流」を大切にしました。日本語教室を、全10回で行いました。「生活情報」では、横浜での生活に役立つ情報(電車・バスの乗り方、防炎情報など)を共有しました。17名(延べ144名)の学習者が参加しました。(1月・2月開催)

重点C...産業界等と連携した新たな日本語教室の取組

PICK UP

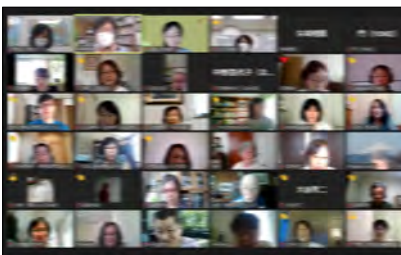
2020年度モデル地域事業報告会

本事業では、区役所や地域の方たちと連携し、区域での展開を行っています。その事業報告会を、市職員対象の多文化共生セミナーとして行いました。モデル地域である磯子区、緑区からの活動報告があり、それぞれの区の取り組みや課題が紹介されました。併せて地域日本語教育の現状について、基調報告がありました。(7月開催)

重点B...地域日本語教育推進モデル地域での展開

担当者からひとこと

秋に行われた日本語教室「よこはまでつながるくらしの日本語」では、ICT活用講座を修了した支援者の方が、講座のサポーターとして活躍しました。受講者と参加された学習者のみなさんにとって、とても有意義な時間だったと思います。(方)



PICK UP

ICT活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」

コロナ禍での地域日本語教室の活動継続支援企画として、支援者がビデオ会議システム(Zoom)を体験し、今後の活動を考えるきっかけとなるための講座(参加編・開催編・活用編)を開催しました。基本的な操作方法、主催者としてのミーティング開催方法、さらにはオンライン学習支援とステップを踏んで学びました。

重点D...ICTの活用促進
重点E...教室等の活動継続のための連携・支援

担当者からひとこと

「日本語学習経験はあるけれど、基礎からしっかり学び直したい」という受講者が多く見受けられました。また、出席率が最後まで高く、日本語学習に対する意欲の高さがかがえました。最終回では、講座終了を惜しむ声が多く聞かれ、今後の活動への手応えを感じました。(方)

国際交流ラウンジ
こくさいこうりゅう らうんじ
Yokohama International Lounges
横浜市内の国際交流サービス





2022年度 実施計画

3年目にあたる2022年度も、関係機関・団体とのより一層の連携促進を図りつつ、子どもから大人まで切れ目のない地域日本語教育（学習支援）の実現を目指し、多文化共生のまちづくりを推進します。

支援者向けの研修としては、日本語ボランティア入門・ブラッシュアップ研修、ICT活用講座等のプログラムを予定しています。学習者向けでは、企業従業員向けや外国人親子日本語教室等を行います。これに加え、ウクライナ避難民への支援を行い、地域社会への参加や生活の見通しを立てることにつなげていきます。

講座情報は、よこはま日本語学習支援センターホームページにて公開していきます。どうぞご利用ください。

基盤	取組	
柱1 体制作り推進のための 基盤の整備	柱2 市域における地域日本語 教育の推進、連携	柱3 研修、 地域日本語教育・支援
取組1 総合調整会議 取組2 総括コーディネーター配置・ 地域日本語教育コーディネーター に向けた取組 取組3 域内における 連携のための取組	取組3 域内における連携の ための取組 取組10 広報活動 取組13 成果の普及 取組14 その他関連する項目	取組5 研修 取組6 地域日本語教育 効果を高める ための取組 取組8 付随した取組 取組9 付随した取組 取組11 ICT活用
(重点A) よこはま日本語 学習支援センターの充実	(重点B) 地域日本語教育 推進モデル地域での展開	(重点C) 産業界と連携した 新たな日本語教室の取組 (重点D) ウクライナ 避難民への支援
(重点E) 地域日本語教室等の活動充実のための連携・支援		

2022年度の事業概要は、
こちらで公開しています。



スタッフ紹介 ～日本語を通し、楽しく生活しやすい横浜を目指します～

<p>事業担当</p> <p>(上段・左から) 木村 佳絵 紙谷 元己 庭山 恵太 (下段・左から) 矢島 由佳 唐木 澤みどり 野俣 恭子</p>	<p>プログラムアドバイザー</p> <p>嶽 肩志江</p>	<p>総括コーディネーター</p> <p>(左上) 藤井 美香 地域日本語教育コーディネーター (右上) 方 舜 姫 (左下) 前波 美雪 (右下) 板垣 美紀</p>	<p>多文化共生推進課</p> <p>(左) 木村 博之 (課長) (右) 門 美由紀 (担当課長)</p>
---	--	--	---

2010年～

1994年の方が暮らしています。千葉県、神奈川県、兵庫県などで50家族、

80年代～

2002年までには915人が難民として認定されました。

70年代

インドシナ難民
1975年のベトナム戦争終結前後の混乱の中、インドシナ3国(ベトナム・ラオス・カンボジア)で発足した新しい政治体制を拒み、国外へ脱出した人々。日本は2005年までに11,319人のインドシナ難民を受け入れました。

国内における難民受け入れの変遷

今、日本には、「インドシナ難民」「条約難民」「第三国定住難民」と言われる難民の方々が暮らしています。日本での難民の受け入れは70年代後半にはじめて本格化し、2010年には第三国定住難民の受け入れがスタートしました。(左図)



難民を支える 支援とは

矢崎理恵

第1回：難民とは？

ウクライナからの(避)難民受け入れが始まり、これまではテレビやネットの向こう側に映っていた「難民」と言われる人々が、この社会で共に暮らす「人」として意識されるようになりました。日本に暮らす難民への理解を深めていただくための、連載をスタートします。(全3回)

難民支援の現場から ～ただ傍らにいる～

難民と他の移住者で大きく異なる点は、難民の方々の多くには「帰国」の選択肢がない、ということです。

学生時代に民主化運動に参加し国を逃れたMさん。無国籍のまま日本で生まれ育った子どものために帰化も考えますが、愛する母国の国籍を捨てることに大きなためらいがありました。そんなMさんが帰化を決意したのは、若い時に別れたままの父親が、余命数か月の宣告を受けたときでした。「最期に一目会いたい」と思ったMさんにとって、帰国できる唯一の方法が、帰化をし日本人として母国を訪れるというものでした。結局、Mさんの帰化申請の結果を待つことなく、お父上は他界されました。

いつも思います。私たちはMさんの傍らにいて何ができるだろうか。それは「ただ傍らにいる」ということだけなのかもしれません。



次号では支援活動について理解を深めます。
←さほうと21 矢崎理恵さんプロフィール

難民認定と在留特別許可

「難民認定制度」により他国の保護を求める人は、何らかの方法で上陸した後、難民認定申請を行う必要があります。

日本における難民認定基準

難民認定審査の基準となるのは、1951年に採択された「難民の地位に関する条約」の第一条です。そこには、「難民とは、『人種、宗教、国籍もしくは特定の社会的集団の構成員であること、または政治的意見を理由に』迫害を受けるおそれがある人々」と記されています。この難民の定義に照らし合わせて、難民認定の審査が進められます。

人道的配慮による在留特別許可

難民認定手続の中で、難民の基準は満たしていないものの、戦争や国内紛争など、難民と同様にやむを得ない理由で出身国に帰ることができない人に、「人道的配慮による在留特別許可」が付与されることもあります。そのような方たちで日本に在留する人の数は3,289人(1982年～2021年)と、難民認定者の数を大きく上回ります。

よこはま にほんごきょうしつ しょうかい
横浜にある日本語教室の紹介

Vol.01



日本語教室ってどんなところ？どんな人が通っているの？
 よこはまにたくさんある「地域の日本語教室」をもっと近く
 に感じて、あなたも参加してみましょう！



Pick Up

ボイス日本語クラブ (緑区)



あなたの近くの
 日本語教室は、
 ここから探せます

<http://www.yokeweb.jp>



どんな教室？

水曜クラスと木曜クラスがあり
 ます。時間は10:15-11:45、会費
 は1カ月300円です。
 1対1〜2名の少人数でレッス
 ンをします。お花見などの課外
 イベントもあります。

場所：みどり国際交流ラウンジ
 JR横浜線 宮地下鉄
 中山駅 徒歩2分



教室から、ひとこと

中国やペルーなど8カ国の人たちが
 通っています。
 日本語が初めてでも大丈夫！ふだん
 の生活で使う言葉など、みなさんの
 目的に合わせて楽しくにぎやかに
 勉強しています。



教室のかわいい
 情報は、こちら



申し込み

TEL 070-6466-8566
 MAIL kjijunp@gmail.com



どんな人が通っているの？



スリヤマート・シーパタイさん
 (ラオス人民民主共和国)

来日年数：16年
 趣味：バーベキュー、アニメを観ること
 好きな日本語：仲間
 最近覚えた日本語：ゲリラ豪雨



日本語で、どのようなことが
 できるようになりたいですか？

日本語を書いたり、読んだりできない人を助けてあげた
 い。初めて日本に来たとき、たくさんの人に助けてもら
 いました。自分も同じようにやってあげたいです。



日本語教室に入ったきっかけは？
 また、どうやって今の教室を知りましたか？

日本語を読めるようになりたいと、ずっと思っていました。
 いとこに相談して、ボイスに通っていた、いとこの友だち
 から、この教室のことを教わりました。



日本語教室のいいところを
 教えてください。

いろいろな国の人たちと話せて楽しい。自分の国と違う
 ことがあって面白いです。間違った日本語を使うと、
 ちゃんと説明してもらえるので、勉強になります。

よこはましな い こくさいこうりゅう しょうかい
横浜市内の国際交流ラウンジ紹介コーナー

つづき MY プラザ
 (都筑多文化・青少年交流プラザ)

TSUZUKI MULTICULTURAL & YOUTH PLAZA

都筑区に住む外国人を
 応援しています！



ラウンジからのお知らせ

都筑区って、どんなところ？
 「港北ニュータウン」という住みやすい
 エリアが広がっているところです。
 センター北駅、センター南駅には
 大きなショッピングモールがあるので
 お買い物も楽しめます。
 子育てにも人気のエリアです。

つづき MY プラザは外国人やボランティア、中学生・高校生世代が
 活動したり相談したり、気軽に立ち寄ることのできる「居場所」です。
 国際交流ラウンジとして、中・高校生世代を応援する場として、
 人と情報をつなぎます。



*外国語対応
 英語・中国語・スペイン語
 ラウンジが開いている時間に
 相談することができます。



Access

市営地下鉄 センター北駅
 徒歩3分

Address

横浜市都筑区中川中央 1-25-1
 ノース・ポートモール 5F

Open

月～金：10:00-21:00
 土日祝：10:00-18:00

Closed

第3月曜、年末年始

TEL: 045-914-7171
 e-mail: my-plaza@tsuzuki-koryu.org

*このコーナーでは、国際交流ラウンジの情報を掲載します。掲載ご希望の場合は、YOKEまでお問合せください。

★ あつめてみました！

なつ
夏のオノマトペ



日本語には、「オノマトペ」がたくさんあります。会話・小説・マンガ・テレビなどでよく使われるので、覚えると、とても便利です。

あなたの国には、どのようなオノマトペがありますか？
下の絵は、海水浴での様子です。日本のオノマトペをたくさん見つけました。
右側にある例文を見ながら、どういう時に使うのか、考えてみてください。



オノマトペ (onomatopoeia) とは？
声や音、人や物の状態や動きなどを音で表したことば。



紹介したオノマトペの例文
同じオノマトペでも、いろいろな意味・使い方があります。ぜひ調べてみてください。

- ①太陽が、**ギラギラ**照りつける。
- ②葉っぱが、**ゆらゆら**と揺れている。
- ③雲が、**ふわふわ**と浮いている。
- ④ボールを**ポーン**と投げる。
- ⑤シャッターを**カシャツ**と押す。
- ⑥**ペチャクチャ**おしゃべりする。
- ⑦犬が、**ワンワン**吠える。
- ⑧海に**ぶかぶか**浮かぶ。
- ⑨**ワイワイ**騒いで、盛り上がる。
- ⑩太陽が、**ジリジリ**と肌を焦がす。

神奈川

外国人出身の皆さんが選ぶ
わたしの横浜・神奈川おすすりめスポット

横浜・神奈川には、楽しい場所がたくさんあります。
おすすめスポットに、ぜひ出かけてみましょう！



レポーター
アンドレアス・アドルジャンさん
インドネシア / 横浜に住んで5年

仕事で日本に来ました。ホテルマンをしています。サイクリングが大好きで、自転車で京都まで行ったこともあります。日本は、どこに行っても清潔できれいなのが良いですね！

赤レンガ倉庫前は、ベイブリッジと一緒に撮影できるおすすめスポット！心が癒やされます。



好きな場所は？
(ベスト3)

- 1 赤レンガ倉庫
- 2 横浜中華街
- 3 鎌倉

一番好きな場所の
おすすめポイントは？

赤レンガ倉庫から見える景色が大好きです。大きな旅客船が港に入っているとき、とても素敵な写真が撮れます。夜は、倉庫全体がライトアップされるので、とてもきれいです。

今までで1番
美味しかった食べ物？

横浜市西区にある、有名なお蕎麦屋さんの天ざる蕎麦が、大好きです。天ぶらは、特にエビが好きです。これからも、たくさん食べに行こうと思います。



横浜観光情報 | レジャーを楽しみながら、日本語や日本文化に触れよう！

横浜市内の観光情報や、イベント情報を見ることができます。
英語、中国語、韓国語などで見ることができます。

公益財団法人 横浜観光コンベンション・ビューロー



こまったときは
横浜市多文化共生
総合相談センター



045-222-1209
t-info@yoke.or.jp



横浜で暮らしている外国人から、11の言葉で相談を受けます。
相談は0円です。区役所などと電話をつないで、相談もできます。

月曜日～金曜日
10:00～17:00 (受付は16:30まで)
第2・第4土曜日
10:00～13:00 (受付は12:30まで)



2022年7月号



つながる  よこはま

にほんごコミュニケーション

Yokohama NIHONGO Support Center

<やさしい日本語版>

この冊子の英語版は、
こちらから読むことができます



TOPIC

日本のオノマトペをあつめてみました！
夏のオノマトペ

わたしの横浜・神奈川おすすめスポット

アンドレアス・アドルジャンさん

日本語学習に役立つ場所の紹介

日本語教室 ボイス日本語クラブ（緑区）

国際交流ラウンジ

つづき MY プラザ
（都筑多文化・青少年交流プラザ）

日本語を勉強したい方は、
こちらからお読みください



発行：よこはま日本語学習支援センター（運営：公益財団法人横浜市国際交流協会）

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協カセンター5F YOKE 内

電話 045-222-1173 FAX 045-222-1187 MAIL c-nihongo@yoke.or.jp

横浜市委託事業／文化庁令和4年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用



つながる  よこはま

✦✦ 2022年11月号 ✦✦

にほんごコミュニケーション

よこはま日本語学習支援センター ～横浜×日本語×多文化共生～

横浜で暮らす外国人トークリー
第10回：落語家 らむ音^ねさん

連載 難民を支える支援とは
難民を知るための基礎知識
第2回：受入れ後の支援を考える
矢崎理恵さん

連載 よこはま×日本語×多文化共生
事業を通じて目指すこと
第2回：にほんご・せいかつ・こうりゅう
日本語教室「はじめての横浜～日本語で話そう」

特集

地域日本語教育に関連する お役立ちツールの紹介
「知りたい・やってみたい・つながりたい」



2022年度第2号（通算10号）

編集・発行 よこはま日本語学習支援センター（運営：公益財団法人横浜市国際交流協会）
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5F YOKE内
電話 045-222-1173 FAX 045-222-1187 MAIL c-nihongo@yoke.or.jp

発行年月日 2022年11月5日

横浜市委託事業／文化庁令和4年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用



横浜で暮らす外国人 トークリレー



外国につながる みなさんに、生活の中での日本語との関わりについて話していただくコーナーです。今回登場するのは、プロの落語家として活躍する日系ブラジル人三世の、らむ音さんです。今でも日本語に苦手意識があると話すらむ音さんですが、古典的な日本語も操りながら、多くの方を魅了しています。日本語（ことば）との関わりや思いについて、落語の魅力を変えながら話していただきました。

日本語の壁を感じて

両親は、私が日本で生まれる数年前までブラジルで生活していました。そのため、私が幼少期に触れたことばは、ほぼポルトガル語のみでした。日本語に馴染みのないまま日本の小学校に入学し、遊びを通してことばを覚えましたが、勉強では苦勞しました。一番難しく感じたのは、音読み・訓読みや敬語などです。日常生活でも、大人が使う丁寧なことばや表現方法には、かなりの苦手意識がありました。

中学に入る頃には日本語で困ることはほとんどありませんでしたが、それでも学校の勉強となると、ことばの壁が立ちはだかりました。そのことでクラスメイトにからかわれたり、差別意識を感じたりする度に、「私はブラジル人ではない。見た目は日本人でも日本人でもない。」と、自分のアイデン

自分のルーツがもたらした、ことばへの興味

ポルトガル語・英語を操る両親を見て、幼少期より「カッコいいな」と思っていました。ことばを話せることで、「コミュニケーションの幅」が広がることを子どもながらも感じていたからです。同時に、日本語を上手く話せないことで、冷たい扱いを受ける姿もたくさん見えました。

このような経験により、幼い頃から「ことばは話せた方がいい」と感じていたのかもしれない。そして、私のルーツがもたらしたこれらの経験がことばへの興味につながり、落語家という仕事と結びついてい

落語との出会いとその魅力

落語に触れたきっかけは、師匠らぶ平と

の出会いです。大学卒業後は舞台役者という道に進みましたが、私の舞台を観にきた

師匠が「役者もいいけど、落語をやってみないか、面白いぞ。」と誘ってくださった。この時点では、落語について何の知識も持ち合わせていませんでしたが、師匠の落語を聞かせていただくうちに、その世界にどんどん魅了されていきました。

落語の魅力はたくさんあります。映画やドラマなら膨大な予算がかかる一方で、落語は座布団一枚、しかも一人で壮大な世界観を表現することができます。つまり、特別な何かがなくとも人を笑顔にすることができる、魔法のような力を持っています。また、落語は本来仏教の教えからきているため、それぞれの話に教えがあり勉強にもなります。

3か国語を操る落語家として、伝えていきたいこと

落語という面白い文化を世界に広めていきたいです。3か国語を落語に落とし込む作業は大変ですが、単語を変えたり、直訳ではなくリズムを大切にするなど試行錯誤しています。海外の方に楽しんでいただけたい経験もあり、手応えを感じています。今後は「寿限無」だけでなく、さまざまな落語を3か国語で演じていきたいと思っています。そして、SNS等で世界にどんどん発信していきたいです。

また、落語家として、日系ブラジル人三世として、ことばの壁を感じている子どもたちに勇気を与え続けていきたいと思っています。「私も昔は日本語を話せなかった。それでも、日本語を話す仕事をしている。」そんな私を見て、子どもたちが「自分を信じて挑戦する」ことの大切さを学んでくれたらいいなと思っています。



Profile

落語家 らむ音さん
日本生まれ・日本育ち

幼少期より表現することが大好きで、武蔵野美術大学でアート・デザインを学んだ後、舞台役者の道へ。2017年落語家に転身し、2022年10月には二つ目に昇進しました。落語の楽しさ・素晴らしさを世界に広めるべく、日本語・英語・ポルトガル語の3か国語で独自の落語を築いています。YouTube「らむ音ちゃんねる-RAMUNE-」では、落語はもちろん普段のらむ音さんにも触れることができます！



ともに歩み、ともに育む

よこはま×日本語×多文化共生

このコーナーでは、日本語学習支援の充実に向けた
よこはま日本語学習支援センターの事業を、
「キーフレーズ」とともに紹介します。



今回のキーフレーズ

「にほんご・せいかつ・こうりゅう」

02



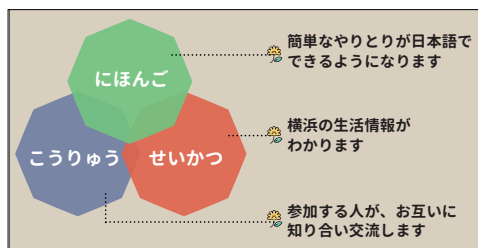
事業名：日本語教室
「はじめての横浜～日本語で話そう」

YOKE では、日本語を学習した経験がない、または学習を始めたばかりの外国人を対象に、入門レベルのオンライン日本語教室「はじめての横浜」を開催しています。ここでは、2022年7月コースの様子をお伝えします。



この教室の特徴は、「日本語学習」「生活情報」「交流」という3つの「知りたい・楽しみたい」を盛り込み、日常生活に役立つ教室としたことです。7月コ

スでは、横浜での生活を始めたばかりの方や日本語初心者の方、学び直しの方などさまざまな方が受講しました。学習形式はオンラインによるグループ学習で、主に初心者、中国語話者、学び直しの人の3つのグループに分かれて講座を進めました。



にほんご

メインテーマは「自己紹介」

全10回のこの講座では、「自己紹介をする」「その中でお互いの共通点を見つけ出し発表すること」を最終目標に設定し、それに向けた自己紹介スキルを各回で学びました。具体的には「時間・場所に合わせた挨拶」「お礼の言い方、謝罪のしかた」「相手の言っていることがわからない時の聞き返し方」などです。最終回となる10回目では、それまでメンバーを固定したグループをシャッフルし、自己紹介をしたうえで、それぞれの共通点を探しました。どの

せいかつ

生活に役立つ情報発信・交換

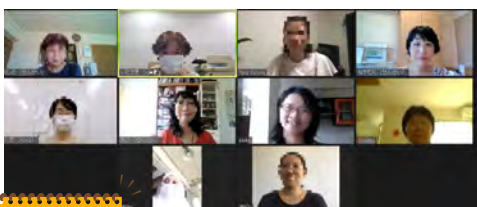
毎回、横浜の情報コーナーを設けました。YOKEのある「みなとみらい」近辺の施設やイベント情報、七夕の日には、七夕伝説や七夕イベント（みなとみらいコスモクロックの「たなばたイルミネーション」）を紹介。その他、日本語の教材や各国の本が借りられる地域の図書館情報、横浜の交通（電車やバスの乗り方）、近隣の公園情報なども紹介しました。また防災情報や、外国語で相談できる場所、この講座が終了した後に学べる自宅などに近い日本語教室の案内など、学習者の生活に必要な情報も盛り込みました。長く横浜に住んでいる学習者は、子ども服が買えるお店など、自分が知っている情報も積極的に話してくれました。

こうりゅう

学習者の発話機会が「たくさんあるよう工夫」

学習者が自らすすんで日本語で話せるように、入室した時には「暑いですね」「今日は天気が悪いですね」など講座で学んだ日本語をつかっておしゃべりをしました。また、グループに分かれて

グループも学習者が率先して話を進めていき、「ズンバを踊る」「日本語を勉強している」「子どもの数が同じ」などの共通点を見つけ、発表は盛り上がりました。相手との共通点を見つけることは、会話を進めていくうえでとても大切なことです。日本語学習と共に、コミュニケーションの取り方についても学べたのではないのでしょうか。



参加者の声

- 小さい子どもがいるのでオンライン教室でよかった。
- 横浜の情報や生活に役立つ情報があったからよかった。
- グループの雰囲気よかった。

ながら学習内容を振り返ることは、同じ目線だからこそその気づきや意欲が生まれ、学びの幅が広がるように思います。

学習を始める前に、「晴れ・曇り・雨」「暑いです・涼しいです」「かき氷・扇風機・クーラー」など、ニュースや季節にまつわること等の簡単な質問ややりとりを行いました。さらには、自分のグループで学んだことを他のグループの学習者や講師で実践する時間をつくりました。学習者どうしが対話し



日本語入門者のオンラインでの学習は、初めは難しいのではという不安もありましたが、やり方やちょっとした工夫でクリアできました。むしろ、オンラインでない学習できない（子どもが小さい、外出できない、日本語に不安があるなど）人にとっては必要な開催方法だと思えました。現在11月コースを開催中。次回の教室は1月コースです。ぜひこの講座をお勧めいただければと思います。



「はじめての横浜(7月コース)」の報告書は、こちらからご覧ください。

横浜で 地域日本語教育に関わっている、関心がある…

「知りたい・やってみたい・つながりたい」

役立つツールを
紹介します！

2020年8月の開設から3年目を迎えた「よこはま日本語学習支援センター」では、地域日本語教育に関するさまざまな情報を発信するとともに、「YOKEにほんご相談室」として相談やお問合わせに対応しています。

今回は、よこはま日本語学習支援センターの情報発信ツールを中心に、これまで寄せられた質問などと併せて紹介します。すでに地域日本語教育に関わっている方も、これから始めてみたい方も、ぜひ参考にしてみてください。

*この原稿では、YOKEで再構成し紹介しています。

日本語ボランティア入門講座や日本語教室などの情報を掲載しています。センター主催のものだけでなく、横浜市内の国際交流ラウンジ主催の情報も掲載しています。

※お知らせページ※

よこはま日本語学習支援センターのポータルサイトです。日本語を勉強したい学習者や支援に興味のある方などに役立つサイトを指しています。

A) ボランティア
「ボランティアに興味があります。参加方法は？」
「日本語ボランティア入門講座はどこで受けられますか？」

おすすめ
よこはま日本語学習支援センター
ホームページ

https://yokohama-nihongo.com/

多い問合せ
3つのキーワード

A) ボランティア
B) 日本語教室
C) 教材、教室活動例

それぞれについて
紹介します。

直近の講座情報はTOPページでも確認することができます。希望に近い講座を見つけてみてください。

※情報冊子ページ※

情報冊子「にほんごコミュニケーション」のバックナンバーを公開しています。横浜市内の状況や地域日本語に関連する活動報告、日本語を勉強している外国人によるトークリレーなど、日本語支援のヒントとなりうる情報が多数掲載されています。読み物としても楽しめますので、ぜひご利用ください。

※英語サイト※

本サイトのうち、学習者向けのページ(やさしい日本語のページ)を英語に翻訳し運営しています。日本語教室の探し方や日本語学習サイトの紹介、情報冊子の英訳版も掲載しています。お近くの学習者に、ぜひおすすめください。メニュー内にある言語を選択すると、英語サイトに移動できます。(https://yokohama-nihongo.com/en/)

ホームページでは、「日本語」に関連する情報を発信しています。



「語学を活かしたボランティアに興味があります。」というお問合せもあります。学校や行政窓口で活動する通訳ボランティアという選択肢もあります。通訳ボランティアの登録は、YOKEおよび、国際交流ラウンジ(一部を除く)で行うことができます。詳しい情報は、YOKEホームページ「通訳ボランティアに登録する」でご確認ください。



https://www.yokeweb.com/toroku/

次にご紹介する「日本語・学習支援教室データベース(横浜)」へは、TOPページのリンクからも開くことができます！

B) 日本語教室

「日本語を勉強したい方に、条件に合う教室を紹介したい」
「日本語ボランティアを募集している教室は？」

おすすめ
日本語・学習支援
教室データベース
(横浜)

https://yokeweb.jp/

横浜市にある日本語教室のうち、137教室(2022年10月現在)を掲載しています。最寄駅や路線の他、開催時間帯や日本語ボランティア募集の有無など、細かい条件を指定し検索することができます。キーワード検索にも対応していて、例えば、オンライン対象講座のみで絞り込むこともできます。検索した教室は、「印刷する」ボタンで整ったフォーマットで印刷、もしくはPDFでの保存ができるため、情報を共有しやすい仕様となっています。

なお、日本語ボランティア及び学習者の募集情報は、よこはま日本語学習支援センターHPお知らせ欄でも案内することができます。

「日本語・学習支援教室データベース」は英語も併記されていて、日本語を勉強したい方も利用できます。



C) 教材・教室活動例

「横浜の地域性のある教材を探しています」
「学習者とコミュニケーションを取るのに良い教材は？」



おすすめ
YOKE発行
日本語教室で使える
教材集

https://www.yokeweb.com/nihongokyozaikai/

横浜市内国際交流協会主催の「YOKE日本語教室」伝え合おう 私のこと横浜のこと」では、生活に役立つ日本語を学び、学習者の皆さんがレベルにかかわらず、居心地よく安心して話すことを大切にしています。地域の教室でも役立てていただけるよう、手作りの教材を公開しています。

※教材例集を話してみよう！

私のこと横浜のこと（2014年）※

日本語入門、初級前半の学習者が自分のことを話し、ボランティアの方やクラスメイトとつながれるよう、「人間関係を築く」ことができることを増やす」という2つの行動目標に合わせた教材を紹介しています。また、別冊「ことばのリスト集」では、職業、趣味などのことばに10言語の対訳をつけています。

※教室活動例集を伝え合おう！

私のこと横浜のこと（2020年）※

小グループでのトピックによる対話活動の進め方と、実際に教室で行った教室活動例をワークシートとともに紹介しています。トピックは「私のラッキーアイテム」「カレーを作ります」など。

日本語教育コンテンツ共有システム「NEWS」 NIHONGO Education contents Web sharing System

文化庁国語課



日本語教育に関する教材、カリキュラム、報告書、論文、施策資料等を横断的に検索できる情報検索サイトです。



かながわで にほんご Study Japanese in Kanagawa

運営：公益財団法人かながわ国際交流財団



日本語教室や教材などの情報提供を通して、神奈川で暮らす方々の日本語学習をサポートするサイトです。



まだまだあります！

日本語に関する
さまざまな情報を
発信するウェブサイト

掲載しているワークシートは、支援者の皆さんが活用できるよう実物大で掲載しています。

教材例集、活動例集はこちらから。ワークシートは、皆さんの教室に合わせて自由に編集して活用いただけます。

→紹介したサイトなどを使った感想や「こんな情報があるといいな」など、声をいただくと嬉しいですよ。



難民を支える 支援とは

矢崎理恵



第2回：受入れ後の支援を考える

前回は国内における難民受入れの変遷、難民認定について触れましたが、受入れ後に必要となる「支援」にはどのようなものがあるのでしょうか。その「支援」は、今日明日の衣食住を支える支援から、長い時間をかけた自立支援まで、多岐にわたります。

難民の形態などによって受けられる支援の形は変わります。いずれにおいても、地域の団体や学校、職場、地域の人たちが、ともに共生社会を築き上げていく姿勢が必要ですよ。

来日直後の支援

第三国定住難民の場合

日本政府の主導で進められる「第三国定住難民」の場合は、来日直後から約6カ月間、よび「定住支援プログラム」を受けることとなります。572授業時間の日本語教育と、120授業時間の生活ガイダンスが提供されます。来日直後のタイミングで行われる、必要不可欠な「支援」です。

条約難民の場合

難民認定の審査を受けるべく難民申請から始める方々が前述の支援を受けられるのは、審査の結果が出た後です。まずは申請書類の準備を進めながら、「食べる物」「住む所」「着る物」の心配をしなければなりません。食料やシエルトアの提供など、そこに手を差し伸べる活動をする団体もあります。また、就労に備えて、日本語学習の機会を提供する団体もあります。ただ、そうした支援の情報に、誰もが行きつけるわけではありません。

定住生活に向けた支援

晴れて難民認定されたとしても、それはゴールではなくスタートです。故郷を

* 母国を逃れ、一時的な庇護を受けていた難民キャンプなどから、受け入れに合意した別の第三国に移り住んだ人々

難民支援の現場から ～長い道のり～



Cさん

10代後半で来日し、難民申請中に無料の地域日本語教室で懸命に学び続けました。難民認定された20代後半には、夢だった大学進学を果たしました。今は難民支援の活動に勤めています。



Rさん

申請中に支援団体の紹介でゼロからプログラミングを学び始めました。今は、プログラマーとして活躍し、最近、母国の子ども達にオンラインでプログラミングを教えるようになりました。



Nさん

子育てが少し落ち着いたところにネイリストを目指し勉強しました。夢をあきらめずに努力し7年経ったころ、自分の店をもちました。今は後輩の指導に余念がありません。

失い、ありふれた日常を失い、ときに家族や仲間を失った人々が、制度も言葉も異なる国で、ゼロから自立した生活を目指すことができるわけではありません。「生活支援」「就労支援」「子ども若者への教育支援」は欠かせないものであり、その全てに関わってくださるの「日本語学習支援」です。

支援団体は定住支援のプロとして、煩雑な役所の手続きや家探し、職探しの支援を進めていきます。さらには、日本語学習の手だてを模索します。公的な既存の支援にたがえながら、時間をかけて、難民の方々自身が納得しながら前に進んでいけるよう伴走を続けます。

長い道のりです。でも、多くの方が、小さな機会を大切に自分の中で育て、努力を重ね、今を生きています。そんな皆さんの日常を支えているのは、支援団体ではなく、ご近所や職場の方、学校の友達や先生方です。さりげなく交わす日常の一言が、何ものにも代えがたい大きな力になっていくことを、地域の方々に知っていただきたいと日々感じています。



←前回の記事はこちら
※次回（最終回）は、地域で共に暮らしていくことについて考えます。

よこはま 横浜にある日本語教室の紹介

Vol.02

日本語教室ってどんなところ？どんな人が通っているの？
 横浜市にたくさんある「地域の日本語教室」をもっと近く
 に感じて、あなたも参加してみましょう！



Pick Up

ごそがくしゅうかい 互相学習会 / にほんおどおりにじょう 日本大通会場 (中区)



あなたの近くの
日本語教室は、
ここから探せます

<http://www.yokeweb.jp>



どんな教室？

毎週木曜日午後2時から3時半まで行っています。皆さんの日本語学習ニーズに合わせてレッスンをします。日本の言葉、生活習慣に慣れて、横浜での生活が快適になることを目指します。

場所 中区役所別館1階 研修室・ミーティングルーム
 せんにほんおどおりに 駅まで徒歩4分



教室から、ひとこと

自由におしゃべりできる開放的な場所です。初めての人でも大丈夫。みんなが明るく楽しく勉強しています。ゲーム大会もありますよ。まずは、教室を見に来てください。



教室のかわいい情報は、こちら



申し込み

メールまたは直接教室に来てください。
 MAIL: gosohnihon518@gmail.com

どんな人が通っているの？



サアラ・スパーシニーさん (スリランカ)

来日年数：2年8ヶ月
 趣味：料理をすること
 好きな日本語：かわいい
 最近覚えた日本語：お金の数え方



日本語で、どのようなことができるようになりますか？

今は、日本語をあまり使わないアルバイトを、週に2回しています。日本語が上手に話せるようになったら、ホテルのフロントなどで働きたいです。



日本語教室に入ったきっかけは？また、どうやって今の教室を知りましたか？

日本人とコミュニケーションを取りたい、日本人の友達を作りたいと思いました。夫の知り合いが互相学習会に通っていて、良い教室だと教えてくれました。



日本語教室のいいところを教えてください。

日本語だけでなく、日常生活のことも教えてくれます。夏休みの前に、みんなでやったゲーム大会は、とても楽しかったです。いろいろな国の人と知り合えて嬉しいです。

よこはまし ない 国際交流ラウンジ紹介コーナー 横浜市内の国際交流ラウンジ紹介コーナー

よこはまし あおば 国際交流ラウンジ
 Yokohama Aoba International Lounge

渋谷方面、横浜方面へのアクセスもかんたん！



青葉区って、どんなところ？

公園も多く、緑豊かできれいな街並みが広がります。都心へのアクセスも良いため「住みたい街」として人気があるエリアです。代表的な駅は、「たまプラーザ」「あざみ野」「青葉台」です。

ラウンジからのお知らせ

生活で知りたいこと・困っていることなど何でも相談してください。日本語教室のほか、子どもの日本語学習補習教室（毎週水曜日）もあります。日本語教室・子ども学習補習教室の学習者の募集については、ラウンジHPを見てください。



*外国語対応
 英語：毎日（ラウンジが開いている時間）
 中国語：水曜日（09:00-13:00）
 スペイン語：水曜日（09:00-15:00）

Access

田園都市線 田奈駅
 徒歩1分

Address

横浜市青葉区田奈町76
 青葉区民交流センター内

Open

月～土：09:00-21:00
 日祝：09:00-17:00

Closed

第4日曜、年末年始

TEL: 045-989-5266
 MAIL: aoba_lounge@intl89h1.t07.itscom.net

*このコーナーでは、国際交流ラウンジの情報を掲載します。掲載ご希望の場合は、YOKEまでお問合せください。

★ あつめてみました！

あき
秋のオノマトペ



日本語には、「オノマトペ」がたくさんあります。会話・小説・マンガ・テレビなどでよく使われるので、覚えると、とても便利です。

オノマトペ (onomatopoeia) :
声や音、人や物の状態や動きなどを音で表したことです。

下の絵は、秋のハイキングでの様子です。日本のオノマトペをたくさん見つけました。右側にある例文を見ながら、どういう時に使うのか、考えてみてください。

「夏のオノマトペ」は、右のQRコードから見るができます。



やさしい日本語



英語



紹介したオノマトペの例文
同じオノマトペでも、いろいろな意味・使い方がります。ぜひ調べてみてください。

- ①枯れ葉が、はらはらと落ちる。
- ②ぼかぼかと温かい秋の日差し。
- ③地図をじーっと見る。
- ④焚き火が、パチパチと音を立てる。
- ⑤お肉をジュージュー焼く。
- ⑥グーグーといびきをかく。
- ⑦針がちくちく痛そうだ。
- ⑧水の上をスイスイ進む。
- ⑨草の上でまったりと過ごす。
- ⑩きのこがによきっと生える。

神奈川

外国人出身の皆さんが選ぶ
わたしの横浜・神奈川おすすすめスポット vol.2

横浜・神奈川には、楽しい場所がたくさんあります。おすすめスポットに、ぜひ出かけてみましょう！



レポーター
テイラー・プリンさん
カナダ / 横浜に住んで6か月

仕事で日本に来ました。趣味は、ドラゴンボートというスポーツです。日本での生活は楽しいです。仕事も楽しいし、和食も大好きです。友だちも、たくさんできました。

春の大岡川。川を下る船も見ることができて、とても楽しいです。気持ちのいいお散歩コースです♪



好きな場所は？
(ベスト3)

- 1 おおかがわ大岡川
- 2 さんげいせん三溪園
- 3 はこね箱根



1番好きな場所の
おすすめポイントは？

春になると、大岡川プロムナードにたくさんの桜が咲きます。おしゃれなカフェがたくさんあって、コーヒーを飲みながら、桜を見ることができます。
*大岡川沿いに整備された、長さ約3.5kmの遊歩道



今までで1番
美味しかった食べ物？

抹茶パフェです！「苦い」と「甘い」の組み合わせが、とても美味しく感動しました。抹茶と緑茶が大好きで、京都・宇治まで行ったこともあります。



横浜観光情報 | レジャーを楽しみながら、日本語や日本文化に触れよう！

横浜市内の観光情報や、イベント情報を見ることができます。英語、中国語、韓国語などで見ることができます。



公益財団法人 横浜観光コンベンション・ビューロー



こまったときは
横浜市多文化共生
総合相談センター



045-222-1209
t-info@yoke.or.jp



横浜で暮らしている外国人から、11の言葉で相談を受けます。相談は0円です。区役所などと電話をつないで、相談もできます。

月曜日～金曜日
10:00～17:00 (受付は16:30まで)
第2・第4土曜日
10:00～13:00 (受付は12:30まで)

つながる  よこはま

にほんごコミュニケーション

Yokohama NIHONGO Support Center

<やさしい日本語版>

この冊子の英語版は、
こちらから読むことができます



TOPIC

日本のオノマトペをあつめてみました！
あき
秋のオノマトペ

わたしの横浜・神奈川おすすめスポット

テイラー・ブリンさん

日本語学習に役立つ場所の紹介

日本語教室

互相学習会 / 日本大通会場 (中区)

国際交流ラウンジ

横浜市青葉国際交流ラウンジ

日本語を勉強したい方は、
こちらからお読みください



発行：よこはま日本語学習支援センター (運営：公益財団法人横浜市国際交流協会)

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5F YOKE 内

電話 045-222-1173 FAX 045-222-1187 MAIL c-nihongo@yoke.or.jp

横浜市委託事業 / 文化庁令和4年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用

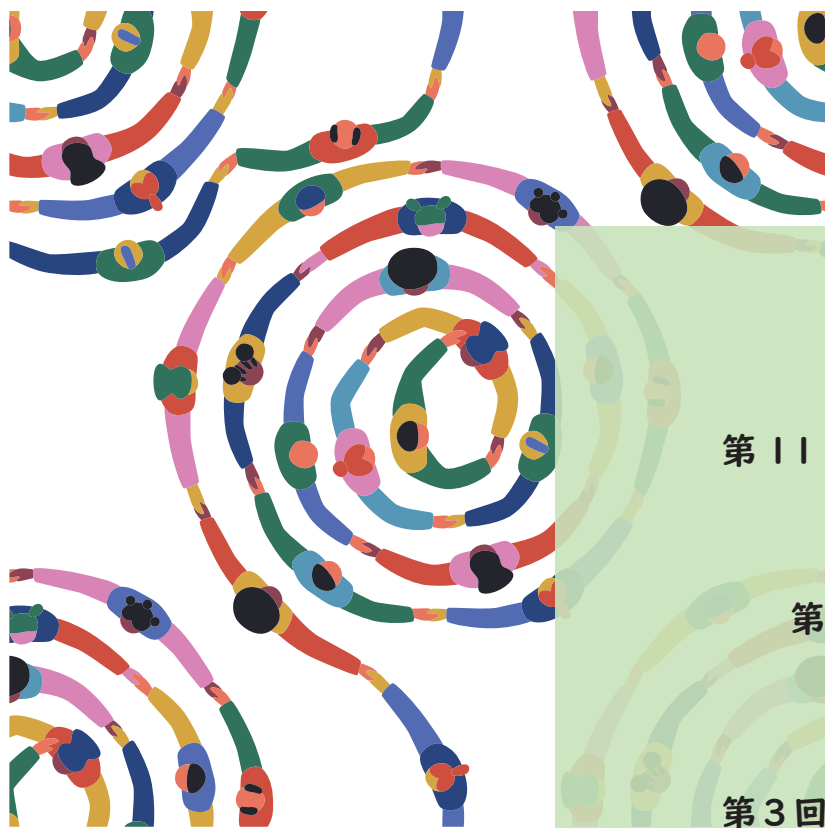


にほんごコミュニケーション

よこはま日本語学習支援センター ～横浜×日本語×多文化共生～

特集

地域を共につukっていく～外国人の私だからこそ、できること～
地域で活躍している皆さんによる座談会



横浜で暮らす外国人トークリレー

第11回：ジョシ・マンジュシャさん

連載 難民を支える支援とは

第3回：地域で共に暮らしていく
矢崎理恵さん

連載 よこはま×日本語×多文化共生

第3回：支援される側から支える側に
外国の方向け日本語ボランティア入門講座



2022年度第3号（通算11号）

編集・発行 よこはま日本語学習支援センター（運営：公益財団法人横浜市国際交流協会）
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5F YOKE内
電話 045-222-1173 FAX 045-222-1187 MAIL c-nihongo@yoke.or.jp

発行年月日 2023年3月5日

横浜市委託事業／文化庁令和4年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用



横浜で暮らす外国人 トークリレー



外国につながる みなさんに、生活の中での日本語との関わりについて話していただくコーナーです。違う国でことばも分からない中、生活の基盤を築いていくのはとても大変だと思います。今回は、来日間もないころから仕事と育児を両立し、日本語の勉強にも意欲的なマンジュシャさんにお話を伺いました。ことばの壁にぶつかりながらも、前向きな性格とご自身のキャリアを活かし、横浜での生活を楽しんでいます。



Profile

ジョシ・マンジュシャさん
日本在住歴：10年 インド出身

日本のカレーとざるそばが大好きなマンジュシャさん。インドに帰国するときは、お土産にカレーのルーを買っていくほど、日本のカレーの虜になっているそうです。化学の分野に長年携わり、現在働いている大学では、有機化合物（半導体や高分子合成）に関わる研究をしています。優しい笑顔と、目標に向かって努力し続ける姿勢がとても印象的でした。

日本に来た理由を教えてください

主人の仕事で日本に来ました。娘が7歳、息子が1歳半の時です。主にニュース等の情報を通して、「日本はテクノロジーが発達した国」というイメージを持っていました。が、実際に来てみてその通りだと思いました。来日当初の一番のカルチャーショックは、電車内がとても静かだったこと。あんなにたくさんの方が乗っているのに、話し声が全く聞こえないことに驚きました。日本の皆さんは、公共の場では静かなんですね。

どのように日本語を勉強してきましたか？

日本に来てから勉強を始めました。青葉国際交流ラウンジに託児つきの日本語教室があったので、小さい子どもがいる私でも安心して通うことができました。ひらがな・

カタカナから始め、テキストを使いながら漢字や文法などを勉強しました。約10年経たずして、日本語能力試験N2に合格することを目標に、今も続けて通っています。

日本語の勉強を続ける理由は、来日当初に味わった「悔しさ」です。ことばが壁となり、志望する製薬会社で働くことができなませんでした。インドの製薬会社で積んだ経験を日本では活かせないと感じ、本当に悔しかったです。それでも諦めず、化学分野の연구원として、都内の大学で働き始めました。はじめの頃は日本語が分からず苦勞しましたが、同僚や学生たちが親切に教えてくれました。普段は日本語で会話し、レポートは英語で提出しています。今でも専門用語などですみずくことがあります。今でも、周りに助けてもらいながら楽しく研究を続けています。みんな優しく教えてくれて、感謝しています。

横浜での子育てはどうですか？

とても子育てしやすく気に入っています。住環境がとても良いですし、インド人もたくさん住んでいます。ただ、下の子の進学はとても悩みました。息子は2歳から6歳まで日本の保育園に通っていたので、日本の小学校に入学するという選択肢もあつたのです。でも、宿題や学校とのやり取りの面で私自身が不安を感じ、長女と同じインターナショナルスクールに通わせることを選びました。私の日本語も上達してきた頃、日本の小学校に転校することを決め動き出しましたが、コロナ禍と重なり断念しました。

ちなみに、息子の保育園には英語ができる先生がいたので、連絡などは英語で行うことができました。日本の生活に不慣れな私でも安心して子どもを預け、働くことができ良かったです。横浜に住む外国人は多いです。外国人保護者の困りごとを寄り添ってくれる仕組みが、教育現場でもっと充実したら良いと思います。

将来、日本で挑戦したいこととはありますか？

文化交流にはとても興味があるので、仕事が忙しいこともあり、地域の日本人とあまり交流できていません。日本には今後も長く住む予定です。だからこそ、地域とのつながりをつくり、広げ、横浜での生活をもっと楽しいものにしていきたいと思っています。そのため第一歩として、子育てが落ち着いたら、英語や化学を地域の子どもたちに教えたいと思っています。また、もっと日本語を勉強して、いつか日本の製薬会社で働きたいと思っています。来日当初にやりたくてもできなかったことを、自分の手で成し遂げたいです。



ともに歩み、ともに育む

よこはま×日本語×多文化共生

このコーナーでは、日本語学習支援の充実に向けた
よこはま日本語学習支援センターの事業を、
「キーフレーズ」とともに紹介します。



今回のキーフレーズ

「支援される側から支える側に」

03



事業名：外国の方向け
日本語ボランティア入門講座

日本語学習支援をしたい外国人の皆さんが、地域で活動できる
ようお手伝いをする講座です。学習経験者ならではの「強み」
を見つけながら、日本語ボランティアへの理解を深めます。
2022年11月に行われた講座での様子を振り返ります。

まず、受講者自身は日本語学習でどんな
支援を受けていたのか、また、どのような
人がどんな支援を必要としているのかなど
を話し合いました。そのうえで、支援者と
いう立場に立って「日本語支援に必要なこ
と」を考えました。
「長く続けるために、教える回数などを

第1回 「日本語学習支援とは？」
自身の日本語学習経験を振り返り
ながら、日本語支援が必要なこと
について話し合いました。

講座開催の背景と目的




YOKKEでは、日本語学習経験の
ある外国の方と日本人が一緒につく
る日本語教室を目指して、日本語教
室の体験研修を行ってきました。そ
の過程で、外国の方が支援者として
教室に入ること、教室がより豊か
になることがわかりました。そのよ
うな背景のもと、日本語学習支援を
したいと考える外国人の皆さんを後
押ししようと、この講座を企画しまし
た。なお、「令和元年度横浜市
外国人意識調査（横浜市）では、
地域活動への参加意向を有する
人が7割以上となっております。



令和元年度
横浜市外国人意識調査 調査報告書
(横浜市国際局)

講座概要 (全3回)
2022年11月9・16・30日

- 第1回 共有**
 - 日本語学習支援とは？
 - 日本語学習経験の共有
 - 日本語学習支援で必要なものとは？
- 見学**
 - 地域日本語教室の見学
- 第2回 考察**
 - 理想の日本語教室は？
 - 見学を終えて
 - 始め方を考えてみよう
 - どういう支援ができる？
- 第3回 実践**
 - 日本語学習支援に挑戦！
 - 受講者による模擬授業発表会
 - 支援者の心構えとは？

	教室見学の感想	自分が支援するならば？
 Aさん	少し話せるグループを見学した。生活の話などで盛り上がり楽しそうだった。ペアで話した後全体で話していたのがとても良かった。	生活に関連することばかり紹介していきたい。はじめのうちは特に、学習者のやる気がアップするような工夫をしたい。
 Bさん	1対1の教室を見学した。学習者の要望に合わせて、テキスト、ちらし、小説などを使って学習していた。発音が上手くいかなかった学習者もいた。	自身の経験から、文法や敬語など、順を追ってしっかりやっていた。
 Cさん	スムーズに学習を進めるための工夫や準備がよくできていた。英語も使ってフォローしていた。そのボランティアのやり方を参考にしたいと思った。	テキストと生活のことばを結び付ける。また、いろんな国の学習者を担当したい。学習者もいろんな人の日本語に触れた方がいいと思う。

第2回 「理想の日本語教室について話し合おう！」

支援の始め方や、自分たちの強みを活かした日本語支援の形について話し合いました。


第1回と第2回の間、地域日本語教室を見学する機会をつくりました。見学を通して気付いたこと、感じたことに触れながら、理想の日本語教室について意見交換を行いました（左図）。

その中で、「教室に通う学習者の目的は

調整して私生活とのバランスを上手にと
る。」「地域とのつながりをもつことで、支
援の手が届きやすくなる。」「などの意見が
出ました。さらに、日本語学習でつまずい
た体験談や、支援を行う上での心配ごとを
共有したことにより、「自分が苦労した日
本語の使い方などについてアドバイスがで
きる。」「日本語で説明が難し
いところは母語で伝えるこ
とができる」など、学習経
験者ならではの「共通の強
み」を持っていることに気
付くことができました。

講座を終え、受講者からは「すぐにでもボラ
ンティア活動を始めたい」という声があがっ
ていました。YOKKEではその声を大切に、
講座終了後も学習者向けの講座にボランティ
アとして参加してもらうなど、実践経験を積
みながら次のステップに進めるようお手伝い
をしています。今後より多くの方が活動で
きるよう、サポートしていきます。(YOKKE)

最終回では、これまで学んだことをふま
え、自由なテーマで15分の模擬授業に挑戦
しました。鍋料理を話題に生活に必要なこ
とばをテーマにした人、季節に絡めた話題
で話を展開した人、簡単なヨガをしながら
体の部位や動きを伝えたり人など、楽しみな
がら学べる工夫がなされていました。
発表後は、「いろいろな教え方があって
勉強になった」「思ったよ
り準備が必要だった」「日
本語を教えるのは簡単で
はないが、経験を積むこ
とが大切だと思った」な
ど、体験したからこそ見
えてきた、自身の「日本
語ボランティア像」に大
変前向きな様子でした。



日本語でヨガのポーズを説明しながら、身体を動かしました。

第3回 「日本語学習支援をしてみよう！」

ボランティアになったつもり
で挑戦！一人ずつ模擬授業を
行いました。

さまざまだが、共通するのは「良好な人間
関係を築くために日本語を勉強している」
という点ではないか。」という気付きがあ
りました。さらに、支援の始め方、実践的
な方法の紹介などもあり、受講者はさらに
「日本語ボランティア」への理解が深まっ
たようです。

地域を共につくっていく ～外国人の私だからこそ、できること～

地域で活躍している皆さんによる座談会

地域でボランティア活動をしている外国出身のお二人から、「地域における多文化共生」についてお話いただきました。外国人の視点から見えるもの・感じることを、共に地域をつくることとは？聞き手は、外国人と地域をつなぐ活動を行う「サロン・デ・チャルラス」代表の村上直子さんです。

*この原稿では、YOKEで再構成し紹介しています。



村上直子さん

サロン・デ・チャルラス代表
「笑顔を増やしたい」

レ・ダン・コアさん

ベトナム出身
「交流に新しい風を」

セヴィリン・レクレールさん

フランス出身
「地域に恩返しをしたい」

村上(聞き手) 今日はとても楽しみです。まずは、簡単に自己紹介をお願いします。

コア ベトナムの大学で日本学を専攻しました。卒業後、博士号をとるため6年前に来日し、横浜市内の大学院で社会学を学んでいます。

セヴィリン 6年前、家族の仕事で来日しました。横浜市内の2つの公立小学校で国際理解教室の講師をしています。

とても日本語が上手ですが、どういう風に勉強してきましたか？

コア 3年生の時に大学を休学し、東京にある日本語学校で9カ月ほど日本語を勉強しました。夜は学費のためにアルバイトをしました。アルバイト先の同僚との会話を通して、日本の文化やコミュニケーションのとり方を学びました。

セヴィリン なか国際交流ラウンジ(以下、なかラウンジ)の日本語教室に1年ほど通いました。教室では日本語の勉強だけではなく、ゴミ出しや病院、防災関連の情報など、生活に必要なことも一緒に学ぶことができて良かったです。

外国人だからこそ「強み」とは

地域でボランティアをされていると伺いました。メインの活動を教えてください。

セヴィリン 私の出身地・リヨン市と瀬谷区は姉妹都市で、両市の中学校・高校をつなげる国際交流事業に携わっています。また、娘が通うインターナショナルスクールのチャリティ活動の一環として、ホームレスの方々に食事や服を提供しています。

コア 鶴見国際交流ラウンジでベトナム語スタッフとして働いています。また、横浜市通訳ボランティアの他、鶴見区在住のベ

トナム人親子への支援活動をしていて、お母さんたちと協力しながら、交流イベントを開催するなどしています。

いろいろな活動をされていて素晴らしいです。活動をとおして、外国人だからこそ「強み」を感じますか？

コア 外国人独自のエッセンスを加えられるところだと思います。ベトナムの文化講座で、ココナツの葉を使った折り紙のよな講座を企画した時、日本人から多くの反響がありました。自分たちにとっては当たり前でも、違う文化をもつ人々には特別に映るものがたくさんあります。それを取り入れることで、「新しい風」が吹き、交流の輪がもっと広がっていくのではと思っています。

セヴィリン 私が今働いている小学校での国際理解教室での活動も、まさに「外国人だからこそ」ですね。そのような場所、場面は本当にたくさんあると感じます。

「交流したい」という気持ち、ボランティア活動の原動力に

仕事や学校など忙しく、時間をつくるのも大変だと思えます。どうしてボランティアをしようと思ったのですか？

セヴィリン 地域との交流を楽しみたいと思ったからです。また、交流をすることで日本語の勉強ができて、文化に触れることもできます。なかラウンジにはとてもお世話になったので、地域に恩返しをしたいという気持ちも大きいです。

コア きっかけは、町内会の文化交流イベントに参加したことでした。その後、お祭りや商店街のイベントに積極的に参加しました。地域人との交流を楽しみたいから、というのは大いにあります。

キーポイントは「交流をしたい」という気持ちですね。でも、日本人との距離を詰められず、孤独を感じている方もいます。

セヴィリン 私だからこそ得られる「選択肢」がたくさんあるので、孤独を感じたことはないです。それに、小学校での仕事もボランティアも、その場所に行けば同じ目的を持つ人たちが集まっています。そこには「外国人だから」「日本人だから」という概念は存在しません。

コア 日本人は他国に比べておとなしい方なので、外国人の方が積極的に話しかけないとコミュニケーションをとるのが難しく、寂しく感じてしまうでしょう。外国人支援をしている日本人は外国人と接することに慣れておりオープンマインドな方が多いので、はじめはそのような方と接する機会を持って、少しずつ馴染んでいくといいかもしれません。

交流で育む、異なる文化への理解

アメリカ出身の友人は、「アメリカなら5分もあれば相手のことがよく分かる。日本はそれがなく寂しい」と話していました。

コア ベトナム人の場合も、いわゆる個人情報に触れる部分も遠慮なく話をするので、日本人相手だと共有できる話題が限られ、距離を詰めにいと感じる方が多いです。相手の文化が理解できれば、もっとスムーズなコミュニケーションがとれるようになるかもしれません。



この座談会は、2023年1月27日YOKEにて行いました。

まさに、お互いの文化を理解し認め合う「多文化共生」ですね。

セヴィリン 話すことが大切ですよ。生活様式、宗教、文化：いろいろな違いがあつて当たり前です。交流して、話して、分かち合うことが大切だと思います。

手を取り合つて、みんなが笑顔で過ごせる地域をつくらう！

外国人と日本人がもっと交流できるようにするには、何が必要だと思いますか？

コア 外国人住民を地域の一員として認め、一緒に町内イベントをつくることですね。経験してもらつて、次につなげるのが重要なので、「参加しやすい」というのがポイントです。一方的に何かを発信するようなものよりも、双方向の交流ができるもの方がいいと思います。

そうですね。交流は双方向であるからこそ、深まるものですね。でも、あまり積極的でない外国人には、どのようにアプローチしたいかと思いませんか？

セヴィリン ルールや先入観に縛られたままだと、外国人に届きにくいと思います。例えば雨の中、前を歩く人が転んだとします。多くの日本人は相手を辱めないように、敢えて見て見ぬ振りをすると思います。でも、それでは外国人には伝わりません。心の声のままに手を差し伸べて欲しいと思います。

コア 支援機関の数は充実しているのに、支援を必要とする人にあまり上手く届いていないと感じます。そこで、日本社会と外国人のことが理解でき、両者をつなげたいと思う人が、仲介者として機能すればいいのではと思います。サポートが必要な人たちの多くは、日本語が分からないから助け

も出せない、どうしたらいいのかも分からない状況です。仲介者が地域と連携し、効率的にマッチングできるような仕組みができるといいと思います。

「外国人だからこそ」の素晴らしいアイディアですね。ボランティアをしたい外国人の方は、周りに多いですか？

コア 多いですが、時間を調整するのも大変ですし、情報に辿り着くのも難しくそうです。解決策としては、ボランティア募集の一覧をリスト化し、SNSなどで多言語発信することだと思います。また、そのリストに日本語レベルが明記されているといいと思います。参加したのに日本語が分からない、できないとなるとそれが失敗体験となり、その後の参加が難しくなるからです。

セヴィリン なかラウンジでも、外国の方に参加してもらえそうな地域イベントの情報も、日本語教室の学習者に発信していいと思います。ボランティアをしたい外国人はたくさんいるので、力を合わせて楽しい地域をつくっていただきたいと思います。

今日は貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございます。

～あとがき～

多文化共生は双方向であるべきで、それをつなぐ場所や人、きっかけをつくることがとても大切だと感じました。まずは受け入れ側の私たちが肩の力を抜き、外国人住民の方たちが、生き生きと気軽に発信できる場を増やしていけるといいですね。そのためには、地域での日本語教育をもっと広げて、外国人住民の方たちが地域と触れ合う機会を増やすことが大切だと思います。そして手を取り合い、一緒により良い社会を築けたらいいと思います。

サロン・デ・チャルラス
代表 村上直子



難民を支える支援とは

矢崎理恵

第3回：地域で共に暮らしていく

さまざまな背景を持つ「難民」と呼ばれる方々。最終回となる今回は、日本で、地域で暮らす彼らに、同じ地域住民である私たちができることを考えてみます。その答えのヒントは、皆さんがよく抱く疑問の中にあるようです。

た、というのは、決して珍しい話ではありません。難民申請の結果を待つ間はもちろん、難民認定されたとしても、今はまだ目の前に何の光も見えていない人がいます。機会があれば、いつか日本以外の国に行きたいと願っている人もいます。皆さんの本当の意味での日本生活は、まだスタート地点についていないのかもしれない。

そんな人々の状況を理解し、その複雑な心情を受け止めてくれる職場、学校、地域であつてほしいと、日々の難民の方々のやり取りの中から強く感じています。「憐み」とか「同情」とかではなく、「職場・学校・地域で共に暮らす仲間」として受け入れる気持ちをもちながら、「ご自分の足で歩き出すタイミング」を、気長に待っていただきたいと思っています。

✓ 気軽に声を掛けよう

「おはよう、〇〇さん、いい天気ですね」と声をかけるぐらいのことから始めてみてください。はじめはことばが返ってこないかもしれませんが、声をかけ続けることが大きな支えとなります。大きな問題があれば、役所や難民支援団体に相談に向き、解決をはかるだろうと思います。でも、「ちょっとわからないこと」「ちょっと困ったこと」を気軽にたずねることのできる、同僚、クラスメイト、ご近所さんの存在こそが、皆さんの日々の暮らしを支え、日本社会を肯定的に受けとめられる糸口となることでしょう。地域で共に暮らす皆さんには、「いつでも声をかけてね」のサインを出し続けていただければと思います。

身近にできることから始めてみるのいいですね！



✓ 私たちができることは何でしょうか？

「Bさんはこんな風に答えました。『あなたが海で溺れ死にそうになっていると思ってください。そこに1つ小さな島が見えました。あなたはどうしますか。鳥が嫌いかは関係ありません。とりあえず、その島を目指しなさい。』とありだからわたしは日本に来ました。』」

✓ 気持ちに寄り添い、受け止めよう

母国を逃れ、何の備えもなく、国をこえて移動し、たまたまたどりついた国が日本だっ



なぜ、日本に来ることにしたのですか？

「Bさんは、『自分の家も車も残したまま、国を逃れなければならぬ状況にあったのです。どうして知り合いもいない日本に来ることにしたのですか。』」

「Bさんは、『自分の家も車も残したまま、国を逃れなければならぬ状況にあったのです。どうして知り合いもいない日本に来ることにしたのですか。』」



↑連載のバックナンバー

よこはま にほんごきょうしつ しょうかい
横浜にある日本語教室の紹介

Vol.03



日本語教室ってどんなところ？どんな人が通っているの？
 よこはましにたくさんある「地域の日本語教室」をもっと近く
 感じて、あなたも参加してみましょう！



Pick Up

せやにほんごプロジェクト (瀬谷区)



あなたの近くの
 日本語教室は、
 ここから探せます

<http://www.yokeweb.jp>



どんな教室？

無料オンライン日本語教室です。
 Zoomを使います。誰でもどこ
 からでも参加できます。毎週日曜
 10:00-11:00 と 14:00-15:00 の2回
 レッスンを行っています。
 両方参加することもできます。

場所

オンラインのみです。
 どこからでも参加できます。



教室から、ひとこと

お互いの国の文化、生活、習慣など、
 やさしいにほんごで、楽しくおしゃべ
 りしています。最近では、ブルコギ、
 おかゆ、月餅、シナモンロールなど
 食べ物の作り方で盛り上がりました。



教室のかわいい
 情報は、こちら



申し込み

URL : <https://forms.gle/GnHUDxQUUoHJTSNg8>
 mail : seyanihongopr@gmail.com

どんな人が通っているの？



**ブイチタンさん
 (ベトナム)**

来日年数：5年
 趣味：陶器を集めること
 好きな日本語：安全第一
 最近覚えた日本語：一般的



**日本語で、どのようなことが
 できるようになりたいですか？**

日本人のお友達と、日本語でもっとコミュニケーションを
 とりたいです。また、車の免許を取りたいので、そのた
 めにも日本語を勉強したいです。



**日本語教室に入ったきっかけは？
 また、どうやって今の教室を知りましたか？**

子供が2人います。学校から配られるお知らせの内容が分
 かるようになりたくて、教室に参加することを決めました。
 この教室は、友達からSNSで教えてもらいました。



**日本語教室のいいところを
 教えてください。**

オンラインの教室なので、いつでもどこでも勉強すること
 ができます。実際に話すので、会話が上手になりました。
 普段の生活に役立つ日本語を、楽しく学ぶことができます。

よこはまし ない こくさいこうりゅう しょうかい
横浜市内の国際交流ラウンジ紹介コーナ-

よこはまし こうなんこくさいこうりゅう
横浜市港南国際交流ラウンジ

Yokohama Konan International Lounge

港南区って、どんなところ？

緑が多く住みやすいエリア。
 都心だけでなく、鎌倉・箱根エリアにも
 アクセスしやすいです。
 ラウンジのある「上大岡駅」は
 とても大きい駅で、
 買い物や映画などが楽しめます。
 自然豊かな久良岐公園には、
 日本庭園や能舞台があります。

ラウンジからのお知らせ

4月になると、新しいメンバーで日本語教室などが行われます。
 「高校生のためのフリースペース」のような新しい企画もあります。
 上大岡駅から近くて便利などところにある港南ラウンジに、
 いちど来てみてください。



英語、中国語、スペイン語など7か国語で相談ができます。
 ことばによって、曜日や時間が違います。
 ラウンジに来る前に電話で確認してください。
 *英語での相談は毎日

Access

京急線/市営地下鉄
 上大岡駅 徒歩1分

Address

横浜市港南区上大岡西1-6-1
 ゆめおおおかオフィスタワー13F

Open

月~土：09:00-21:00
 日・祝：09:00-17:00

Closed

第3水曜、年末年始

TEL : 045-848-0990

MAIL : konan-international-lounge@yokohama.email.ne.jp

*このコーナーでは、国際交流ラウンジの情報を掲載します。掲載ご希望の場合は、YOKEまでお問合せください。

★ あつめてみました！

はる
春のオノマトペ



日本語には、「オノマトペ」がたくさんあります。会話・小説・マンガ・テレビなどでよく使われるので、覚えると、とても便利です。

オノマトペ (onomatopoeia) : 声や音、人や物の状態や動きなどを音で表したことば。

下の絵は、春の公園での様子です。日本のオノマトペをたくさん見つけました。右側にある例文を見ながら、どういう時に使うのか、考えてみてください。

「秋のオノマトペ」は、右のQRコードから見るができます。



やさしい日本語



英語



紹介したオノマトペの例文
同じオノマトペでも、いろいろな意味・使い方がります。ぜひ調べてみてください。

- ①春の日差しが、キラキラと眩しい。
- ②うぐいすが、ホーホケキョと鳴く。
- ③桜の花びらが、ひらひらと舞う。
- ④犬が、楽しそうにグングンと進む。
- ⑤春は心がウキウキする。
- ⑥桜を見ながら、うとうととしてしまう。
- ⑦にこにこ微笑む店員さん。
- ⑧もちもちとした食感のお団子。
- ⑨花粉で鼻がムズムズする。
- ⑩ネコがニャーンと鳴く。



神奈川 vol.3 外国出身の皆さんが選ぶ わたしの横浜・神奈川おすすめスポット



トウソンヨウ 涂運昇さん
台湾 / 横浜に住んで5年

妻の転勤で日本に来ました。趣味は、キャンプや登山、ダイビング、日本の武道（剣道・居合道）です。日本で行ってみたいところは、四国です。瀬戸内海の景色を楽しみながら、自転車で走りたいです。北海道のニセコでスキーもしたいですね！

毎週土曜日、川崎にある居合道の道場に通っています。天気の良い日は、スカイウォークに寄って帰ります。



↑スカイウォークからの眺め

<p>好きな場所は？ (ベスト3)</p> <ol style="list-style-type: none"> 冬の横浜スカイウォーク 春の根岸森林公園 秋の北鎌倉 	<p>1番好きな場所の おすすめポイントは？</p> <p>スカイウォークには、景色を楽しむことができる長い遊歩道があります。海の上を歩きながら、みなとみらいや富士山と一緒に見ることができます。とてもきれいです。 *横浜ベイブリッジの下にある展望施設</p>	<p>今までで1番 美味しかった食べ物は？</p> <p>以前は「天丼」が1番好きでした。特に、旬の山菜の天ぶらが大好きでした。でも、山形県の蔵王で食べた「米沢牛」の焼肉が美味しすぎて、すぐに私の1番になりました。</p>
--	---	---

横浜観光情報 | レジャーを楽しみながら、日本語や日本文化に触れよう！
横浜市内の観光情報や、イベント情報を見ることができます。
英語、中国語、韓国語などで見ることができます。

こまったときは
横浜市多文化共生
総合相談センター

045-222-1209
t-info@yoke.or.jp



月曜日～金曜日
10:00～17:00 (受付は16:30まで)
第2・第4土曜日
10:00～13:00 (受付は12:30まで)

横浜で暮らしている外国人から、11の言葉で相談を受けます。相談は0円です。区役所などと電話をつないで、相談もできます。

つながる  よこはま

2023年3月号  

にほんごコミュニケーション

Yokohama NIHONGO Support Center

<やさしい日本語版> にほんごばん

この冊子の英語版は、
こちらから読むことができます



TOPIC

日本のオノマトペをあつめてみました！
はる
春のオノマトペ

日本語を勉強したい方は、
こちらからお読みください



● わたしの横浜・神奈川おすすめスポット

ト ウンショウ
塗 運昇さん

● 日本語学習に役立つ場所の紹介

日本語教室 セや にほんごプロジェクト (瀬谷区)

国際交流ラウンジ 横浜市港南国際交流ラウンジ



発行：よこはま日本語学習支援センター (運営：公益財団法人横浜市国際交流協会)

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィック横浜 横浜国際協力センター5F YOKE 内

電話 045-222-1173 FAX 045-222-1187 MAIL c-nihongo@yoke.or.jp

横浜市委託事業／文化庁令和4年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用

